

ゆがみ取り SPAT はいかにして生まれたか（下）

～それは朝の入浴中に閃いた！～

【聞き手】あはきワールド編集人

前号では、ゆがみ取り SPAT の開発者である鹿島田忠史氏が一流大学を出て有名企業に就職するも 4 年で挫折。脱サラし、あま指師、柔整師の資格を取得し、操体法と出会い、操体法の創始者である橋本敬三氏の温古堂で研修生活を送ったところまで、話を聞いた。今号では、治療家としてスタートしながらなぜ医師を目指したのか、そして操体法をベースにしたゆがみ取り SPAT がどのようにして生まれたのか、その誕生秘話などに迫ってみる。

研修終了後は実家の治療院で試行錯誤の日々

—— 温古堂での研修を終えてどうされましたか？

鹿島田 昭和 57 年（1982 年）夏に東京に帰り、実家の指圧治療院のスタッフとして仕事を始めました。1 年間の研修成果を生かすように、手技のメインは操体法に置きました。それだけでは、いまだ治療費に対して時間的に不足と思われる不安もあったので、指圧やマッサージの要素も取り入れて施術していました。こうしたスタイルで施術していると、体力的な限界で 1 日最大 10 名程度しかこなせず、売上げも上がりません。そこで、低周波治療や干渉波、温熱療法など片端から試したのですが、なかなか「後が気持ちいいは、体にいい」の条件に合うものが見つかりませんでした。そうした中で、現在ではカーボンを使った光線療法や特殊な液体を用いた温湿布、電気による足デトックスを使って、気持ちいい電気治療を実現しています。

—— てっきり操体法一本で始められたと思っていたら、いろいろ試行錯誤されたんですね。ところで、研修を終え、治療家としてスタートしたのに、そのあと、どうして医学部へ。なぜ医師になろうと思ったんですか？

鹿島田 医師をめざした理由は 3 つほどあります。第一は、仕事上の制約をなくすことです。専門学校時代にもうすず感じていたのですが、臨床の現場に出ると法律上ではいけないことばかりでした。たとえば、問診や理学的検査をして椎間板ヘルニアを疑ったときに、「あなたの痛みの原因は椎間板ヘルニアでしょう」と伝えると医師法違反になってしまいます。ほかにも、糖尿病が疑われるような症状があっても血液検査ができず、検査結果を元に対応することができません。医療系の仕事してみると、至る所で医師免許に守られた権限の壁にぶつかります。こうした壁を乗り越えるには、やはり自分自身が医師免許を取らなくてはなりません。

—— 確かにそうですね。

鹿島田 第二には、革命的な医療・健康思想である操体法の理念を生かして診療したかったからです。私は、操体法の理念を操体理論と呼んでいます。理由の第一で言ったように、この操体理論を制約のない状態で 100%生かすには、医師免許が必須と考えました。操体理論は、医療や健康指導のあらゆる場面で使える根本原則だからです。

—— なるほど……。

鹿島田 第三に、遠慮なく医療制度や治療方針の批判ができることです。資格制度のない世界ならば、誰でもその世界のしきたりややり方の批判ができます。しかし、資格の有無でできることが変わるときには、資格のない人が有資格者の批判をすることはできません。わかりやすい例を挙げれば、運転免許を持たない人が、持つ人の運転を「へたくそ」と非難したとしましょう。このとき、免許を持つ運転手は、「免許を持たないお前にだけは言われたくないね」と反発すること必定です。

—— そりゃ、そうだ。

鹿島田 医師免許がなく臨床経験もない人が、医療制度や治療方法の批判をしても、「門外漢が何を言う」と取り合ってもらえないはずで。操体理論を理解し実践しようとする、既存の医療制度や治療法に疑問を持つことばかりです。このとき、医師免許がないと、こうした疑問を遠慮なく発言することができないのです。

—— 鹿島田さんが医師をめざした理由はよくわかりました。しかし、30代ですよ？

鹿島田 医学部入学は 34 歳の時です。

—— 私なんかですと、その歳でそうは思ったとしても、気力が伴わなくて、諦めちゃいますよね。思ったら実行する行動力には頭が下がりますね。某番組のコメンテーターじゃないですが、「あっぱれ」を差し上げたいくらいです。

鹿島田 いやあ、そんな「あっぱれ」というほどでも……。何とかあったのも、建前ではなく本音で周囲の協力のお陰で、感謝は尽きません。

—— では、皆さんが最も知りたがっているゆがみ取り SPAT の誕生についてお聞きしたいと思います。ゆがみ取り SPAT はどのようにして生まれたんでしょう？

鹿島田 医学部通学時期も含めて、指圧治療院の開業後 20 年間くらいは、あん摩マッサージ指圧と操体法だけで施術してきました。再診時に患者さんから前回の施術の効果を聞くのですが、ほとんどの場合、当日や翌日まではよかったという答えが返ってきます。医師を含めて、多くの医療従事者は、「慢性病は原因が老化現象なので、治療の効果が一時的でも仕方がない」と、あきらめるのでしょう。しかし、私は工学部出身なので、壊れた機械は必ず修理できるはず、といった信念があ

り、あきらめきれませんでした。そこで、原点に立ち帰り、操体法が効果を上げているメカニズムは何なのだろう、その効果を長く続くようにするには、どうすればいいのだろうと考え続けました。

—— そしたら……。

SPAT は朝の入浴中に生まれた！

鹿島田 ある日、アルキメデスではありませんが、朝の入浴中に操体法の本質は筋緊張低減で、その効果でゆがみが減ってよくなっているのでは、と閃きました。この仮定が正しければ、操体法前の骨格は筋緊張でそちらの方向にゆがみ、操体法で筋緊張を緩めた上で反対方向に矯正すればいいはずです。そこで、操体法をした後に、反対方向に中程度の矯正を加えたら、効果の持続時間が延びるではありませんか。何人かの患者さんにこの方法を試し、確信を深めて操体法プラス矯正を標準的な施術方法としました。

—— 入浴中の閃きから生まれたとは……。では、その SPAT で行う矯正はどこかで修得されたんですか？

鹿島田 先ほども言ったように、最初に通ったあん摩マッサージ指圧の専門学校で手技療法としてカイロプラクティックを取り入れていたので、その技術がベースになっています。

—— ああ、そうなんですか？！

鹿島田 とはいえ、カイロでは脊柱のゆがみと矯正法が主なテーマとなっていたので、操体法の動きとは直接つながりません。繰り返しになります、私がカイロプラクティックの手技を施術に取り入れなかったのは、何よりも安全性を優先させたかったからです。

—— カイロは矯正手技の安全性に不安があるという話は先ほどもされていましたものね。

鹿島田 そうです。そして、脊柱のゆがみ矯正に疑問を持った決定的な出来事が解剖学の講義でありました。脊柱の解剖の講義でしたが、参考資料として本物の脊椎が並べられました。確か、胸椎の一つだったと記憶していますが、棘突起が真っ直ぐではなく、右に曲がっていたのです。もしこの骨の人が、生前にカイロプラクティックの施術を受けにやって来たとして、術者が背中の棘突起を触ると「胸椎の〇番が右に捻れていますので、矯正します。胸椎を矯正すれば神経の圧迫が取れて、きっとよくなります！」と言うことでしょうか。本当は、棘突起がもともと曲がっているだけなのに、です。

そんなこともあり、骨格がゆがむということは、一体何なのだろう、と考えるようになったのです。ここでも、翁先生伝授の野次馬根性が頭をもたげました。ある朝、またまた入浴中に、自由に動く関節についてゆがむ、というのは矛盾していると気づきました。

—— また入浴中に……。

鹿島田 はい。ゆがみというのは、正しい位置があって、そこから偏位している状態を指すはずで
す。自由に動いているのに、偏位が存在し続けるのはありえない、と思うようになりました。

—— 確かに……。

鹿島田 だとすれば、ゆがみがありうるのは、どこなのだろう。骨について自由に動ける関節にゆ
がみがないとすれば、関節以外の部位にもゆがみはありません。なぜなら、そこは硬骨で変形しな
いからです。結局、消去法で、ゆがみが存在するとすれば、動きが非常に乏しくて簡単には偏位し
ないが、一旦偏位すると戻りにくい部位となります。具体的には、半関節としての仙腸関節と小さ
な肋骨に囲まれた上部胸椎、後頭骨と筋肉主体でつながっている環椎後頭関節の3カ所となります。

この3カ所のゆがみを矯正するには、どうすればよいのか、と考えたとき、ゆがみ部位に直接つ
ながっている上下肢や頭蓋骨をてこの原理で動かせばよいのでは、と思いつきました。そこから先
は運動学の連動の考え方で、ゆがみ方向と上下肢の動きを結びつけて、ゆがみ取り SPAT を開発し
ていきました。



ゆがみ取り SPAT の骨盤手技

SPAT を初めて臨床で使ってみると……

—— なるほど、ゆがみ取り SPAT がどのように誕生したかがよくわかりました。では、SPAT を初
めて臨床で使った時の患者さんの反応はどうでしたか？

鹿島田 操体法で体のバランスを見る般若身経という体操があるのです。立位で、腰椎の前後・左
右・捻りの動きをしてもらって、その時の感覚を患者さんに聞きます。現在は「骨盤のゆがみ検査」
と呼んでいる、このバランスチェックを、ゆがみ取り SPAT 施術の前後でもらいました。

—— そしたら……。

鹿島田 ある患者さんで、施術前は痛みが出て当然動く範囲が狭かったのですが、施術後は痛みも
減り、動く範囲も明らかに拡大していました。

—— 仮説を立て、臨床で試され、仮説が正しいことが証明されたんですね。それはうれしかった
でしょうね。

鹿島田 患者さんも効果にビックリしていましたが、施術した私も驚くやら感激するやらでした。

誠快醫院を訪れる患者はがんなどの難病ばかり

—— ゆがみ取り SPAT が誕生してからはそれを治療の中心にされているとは思いますが、誠快醫院を訪れる患者さんで、最も多い主訴は何なのでしょう？ 整形外科疾患だとは思いますが……。

鹿島田 主訴と言いますか、病名としてはがんの患者さんが約 30%と最多です。

—— がんですか！？

鹿島田 続いて、腰痛、膝関節痛、股関節痛の順になりますが、整形外科疾患全体を合わせて約 16%程度です。なぜ、がんの患者さんが多くなったかという、あま指治療院時代からの流れがあったからです。もう時効だから話せますが、母が経営していたあま指治療院の時から、がん患者さんが来ていて、中には余命半年とか 1 年と言われた人が、数年後も元気で通って来るのを見てきました。医師免許を取った動機の一つが、こうした命がけの人たちを胸を張って堂々と扱えるようになりたい、ということがあったのです。

—— そうですか。ところで、誠快醫院では健康保険は扱われていませんよね。

鹿島田 翁先生の操体理論を 100%生かそうとすると、健康保険の制約下ではまったく診療できません。なぜかという、保険診療で病名が決まると、していい検査や治療が自動的に決められていて、それ以外のことをすると診療費を払ってもらえないからです。医者にできるのは、病気の診断を付けるところまでで、そこから先は工夫の余地なしです。

—— 確かにそうですね。

鹿島田 ですから、必然的に誠快醫院では自費診療になりました。当院では一人あたり最低 1 時間は掛けて診ますので、ある程度の金額を頂かなければ生活できません。となると、保険で何とかなる病気の患者さんは来ないので、普通の治療では治りにくい難しい患者さんばかりとなります。

—— 駆け込み寺ならぬ、難病患者さんの駆け込みクリニックって感じでしょうか。

鹿島田 まあ、そんな感じなんですか。さきほど言ったがん患者さんを筆頭に、こじれた突発性難聴や、何十年も続く腰痛症、どこに行っても治らなかった全身性アトピー性皮膚炎や関節リウマチなどです。教科書通りの治療では治らない方ばかりなので、その都度治療法を工夫するのですが、そうした時いつもよりどころとなるのが「後が気持ちいいは、体にいい」の操体理論です。

SPAT の施術＋操体理論「息・食・動・想＋環」が大事

—— 治療法を工夫されるということは、施術はすべて SPAT のみで行うのではないのですか？

鹿島田 もちろん、ゆがみが原因となっている整形外科疾患にはゆがみ取り SPAT を行います。特に、ゆがみが発生して時間が経っていないときには、1~2 回の施術で完治することもあるのです。こんなときには、患者さんも嬉しいでしょうが、私も心の中で「やったー」と叫んでいます。

しかし、がんや糖尿病、高血圧、高脂血症、アトピー性皮膚炎、子宮内膜症などの慢性病のときには、そうはいきません。こうした生活習慣病は、長年の誤った生活習慣の蓄積で起きているので、ゆがみ取りだけでは根本的な回復に結びつかないのです。根本的に治ってもらうには、操体理論の第二法則で言う「息・食・動・想+環、の相関相補性」を使って生活習慣を見直してもらうしか方法がありません。そこで、呼吸や運動の仕方、食事の見直し、ストレス管理や環境調整など、必要なアドバイスをして体質改善を頑張ってもらいます。

—— なるほど、操体理論はやっぱり重要なんですね。ところで、『ゆがみ取り SPAT』の本を見ると、SPAT は動診、操体法、矯正の3ステップで行う、とありますが、下巻の頸椎への施術では矯正がないようです。やっぱり安全性の問題ですか？

鹿島田 （先週の記事で）先ほどもお話ししたように、一番の理由は—あま指専門学校での私自身の軽度むち打ち症になったことです。お互い同士で頸椎の矯正をし合う同級生の何人かが、同じような事故を経験していました。こうした経験から「頸椎の矯正は危ない」と感じました。

そんなわけで、『ゆがみ取り SPAT 下巻』の頸椎手技では矯正の要素を入れていません。ゆがみ取り SPAT 講習の受講生によく言うのですが、「千人治しても、一人事故を起こしたらお終いですよ」と。事故を起こして、最悪警察沙汰や損害賠償請求訴訟になったら、一生立ち直れません。ですから、万々にも矯正での事故が起こらないよう、細くてデリケートな頸椎については、矯正をストレッチに代えたのです。



ゆがみ取り SPAT の頸椎手技

頸椎の矯正をできるのは頸椎ゆがみ取り SPAT 認定者のみ

—— 安全第一ですからね。ただ、本では扱っていなくても、鹿島田さんの臨床では頸椎への矯正も行っているとか？

鹿島田 環椎後頭関節のゆがみを取って椎骨動脈の循環をよくするのは、頭頸部の疾患全般にとっても効果的です。ですから、本当はゆがみを 100%なくするのが本来の姿で、私も頸椎の施術で矯正を

しています。しかし、先ほどもいったように、しっかり治そうとするあまり事故を起こしたら元も子もありません。しつこく言いますが、絶対に事故を起こさないようにしましょう。

—— そうですね。事故は怖いですから、頸椎には矯正ではなく、ストレッチにしておいた方が無難そうですね。でも、なかには頸椎の矯正を学びたい人がいるのでは？

鹿島田 頸椎の矯正で事故を起こさず、それでいて効果の上がる矯正をするには、教える資格を持った指導者からマンツーマンの指導を受ける必要があります。本や DVD を見て頭の中だけで理解し再現しようとする、どうしても思い込みや癖が入ってしまい、元の手技とは違ってしまいます。違いが弱い方向に行けば事故にはならないのですが、多くの人が「しっかり治して結果を出したい」との思いから、強い矯正になりがちです。そうすると事故の危険が高まります。それで、頸椎の矯正をしたい場合には、講習を受けてもらい頸椎ゆがみ取り SPAT の認定を受けた人だけに限定しています。

—— 学べる場があるんですか？

鹿島田 どこで講習を受けられるかについては、ゆがみ取り SPAT の公式ホームページ (www.spat.club) に載っています。

『ゆがみ取り SPAT』は 40 年間の経験と知識を詰め込んだ集大成

—— ホームページに載っているんですね。私も後で覗いてみます。さて、長い時間、いろいろお話を伺ってきましたが、最後に『ゆがみ取り SPAT』の上下巻の本について。鹿島田さんにとって、この本はどういう本ですか？



『ゆがみ取り SPAT 下巻 胸椎・頸椎編』の表紙

鹿島田 わたしにとっては、操体法も含めて 40 年間改良してきたゆがみ取り SPAT の教科書を残す意味が最も大きいです。20 年前から、本や DVD など各種媒体で SPAT を発表してきましたが、発表年が飛び飛びで内容も新旧が混在していました。しかも、最終発表年度が 2008 年と 13 年も経っています。こうした状況だったので、生きているうちに蓄積した経験と知識をまとめ、ゆがみ取り SPAT の教科書的な本を出さなくては、と思っていました。

ところが、2018 年に強烈なストレスのなれの果てでなった肝転移を伴う IV 期の大腸がんが見つか

り、手術を受けました。生きているうち、言い換えれば「そのうち」だったのが、残り少ない時間で出版しないと、きちんとした教材が残らない状況に追い込まれました。とはいえ、術前の極度の貧血と肝機能低下で術後しばらくは、とてもじゃないですが原稿を書く気力・体力がありませんでした。

手術から半年あまり経って体力も回復し、幸い以前から取り組んでいた免疫強化療法が効果を上げて肝転移も消失しました。そんな時、宮城県の稲田稔先生から、『あはきワールド』の原稿を頼まれ、2019年の3月に投稿しました。この記事がご縁で、『あはきワールド』の石井編集人から『ゆがみ取り SPAT』の本を出しませんか」とのお誘いを受けました。

—— そうでしたね。

鹿島田 元々、いつかは出したいと思っていたゆがみ取り SPAT の教科書ですので、渡りに船のお話で飛びつきました。2019年末からDVDの台本と書籍の原稿に取りかかり、多くに人の協力を得て2020年の10月に上巻を発刊でき、今月（2021年4月）下巻を発刊できそうです。いろいろなご縁をいただいて、今までの経験と知識を詰め込んだゆがみ取り SPAT の集大成をまとめられた、と本当にありがたく思っています。

—— まさに集大成ですね。読者にとって、この本は学ぶ価値が大きそうですね。

鹿島田 もちろんです。読者にとってこの本は、手技療法の喜びを知る手助けになると思っています。医師や治療家にとって、患者さんの「先生の治療のお陰で、すっかりよくなりました」という言葉が、最大の喜びを与えてくれます。言ってみれば、医療従事者の本能みたいなものですね。そのために、いろいろな治療手段があるのですが、できたら特別な才能や資格、長期間の訓練の必要がなくて、誰でも修得可能な手段が望ましいでしょう。ゆがみ取り SPAT は、こうした条件に当てはまると自負しています。

この本を購入して、最初にDVDを見てゆがみ取り SPAT のアウトラインをつかみ、その後に書籍で細かいコツをチェックすれば、実用になるレベルのゆがみ取り SPAT ができるはずです。ほかに、ゆがみ取り SPAT の適応かどうかの知識と症例も書かれているので、臨床の現場で参考になると信じています。特に、今までしていた施術で効果が上がらないとき、違うアプローチで解決を図りたい場面では、きっと役立つことでしょう。

—— はい、今日は長時間にわたり、いいお話をたくさん聞けました。これだけいい話を聞けると、実に気持ちがいいです。「後が気持ちがいいは、体にいい」ですから、インタビューを通して操体理論を実践できたような気がします。ありがとうございました。

週刊あはきワールド 2021年4月14日号 No. 709号より許可を得て転載